

# 会話コーパスに見る 中国人日本語学習者の縮約形の使用状況

東 会娟

キーワード 縮約形、会話コーパス、中国人学習者、日本語レベル、使用率

## 1. 研究の目的

日本人は日常会話で「遅れてしまいました」の代わりに「遅れちゃいました」、「置いておいてください」ではなく「置いといてください」のように、よく縮約形を使う。しかし、日本語教育においては、縮約形ではなく、いわゆるその原形（「てしまう」、「ておく」など）のほうから導入することが多い。学習者は一度原形を習得してしまうと、その後縮約形を教わってもなかなかその運用に至らないのが現状である。そのため、学習者はこういった縮約表現について、上級になっても身につけておらず、上手く会話に取り入れることができないことがある。一方、今まで縮約形に関する研究は、日本語母語話者の使用状況について調べたものがほとんどであり、実際の会話データを用いて学習者の使用状況およびその学習者の日本語能力全体との関係について言及した研究はない。

そこで、本研究では日本語母語話者及び中国人日本語学習者を対象にし、3つの会話コーパスを用いて、日本語母語話者の縮約形の使用状況について検証するとともに、日本語学習者の縮約形の使用状況と日本語レベルとの関係を調べることを目的とする。

## 2. 先行研究

縮約形に関する先行研究は幾つかあるが、ここでは本研究と関連の深いものを2つ挙げておく。

堀口（1989）は4つのテレビ番組と9つのラジオ番組の発話データを分析した。その結果、日本語母語話者は全体的に52%の割合で縮約形を使用しており、以下の3点が明らかになった。

- 1) 縮約形「んだ」、「じゃ」、「てる」、「きゃ」の使用率はそれぞれ98%、82%、74%、72%とかなり高い頻度で使用されている。
- 2) 縮約形「きゃ」の使用率は高いものの、出現数は少なく、使用例の中では「なきゃ」がほとんどである。
- 3) 縮約形「ちやう」、「とく」も使用率としてはさほど低くない(それぞれ68%、52%)が、実際の使用例は少ない(84例、13例)。

嶺岸(1999)は日本語母語話者の縮約形の使用状況について以下の2点を指摘している。

- 1) 縮約形「んだ」、「てる」、「じゃ」の使用頻度は場面によらず高い。
- 2) 縮約形「ちやう」、「くちや」、「とく」のいずれも使用例は少なかった。

しかし、これらの研究は日本語母語話者の縮約形の使用についての調査で、日本語学習者の使用状況については全く触れられていない。

### 3. 縮約形の定義と本研究で扱う縮約形項目

本研究における縮約形の定義については齊藤(1991)に従い、「同一と認められる複数の音形を持つ語(句)に『音節数の減少』<sup>(1)</sup>あるいは『音数の減少』<sup>(2)</sup>または『音量の減少』<sup>(3)</sup>のいずれかの音声的過程が認められた場合、その認められた形」を縮約形とする。そのもとの形は「原形」と呼ぶ。

また、堀口(1989)に基づき、本研究で扱う縮約形項目を「んだ」「(のだ)」<sup>(4)</sup>「てる」「(ている)」「じゃ」「(では)」「きゃ」「(ければ)」「ちやう」「(てしまう)」「とく」「(ておく)」の6つとする。そのうち、「んだ」「てる」「じゃ」は堀口(1989)で日本語母語話者の出現頻度が高いとされており、「きゃ」「ちやう」「とく」は同研究で使用頻度が少ないとされているものである。これらはすべて日本語の教科書で縮約形として一般的に取り上げられていることから、本研究の対象とする。

## 4. データと研究の方法

### 4.1 データについて

本研究では名大会話コーパス、KYコーパス、CJコーパスの3つの会話コーパスを用いて分析を行う。

名大会話コーパスとは、日本語母語話者同士の日常会話が文字化された話しことばのデータベースである。これを利用することにより、研究対象となる縮約形項目が日常会話でどのように使用されているかを把握することができると考えられる。本研究では名大会話コーパスを用いることにより、堀口（1989）と嶺岸（1999）で示された日本語母語話者の縮約形の使用状況を検証する。

KYコーパスとはOPI（Oral Proficiency Interview）テストの録音90人分（中・韓・英語話者）を文字化した会話の資料である。KYコーパス中の中国語母語話者のデータを用いることにより、各レベル（初・中・上・超級）の日本語学習者（中国人）の縮約形の使用状況を明らかにする。

また、「CJコーパス」とは趙（2003）によって収集された中国人日本語学習者（Chinese）と仲のいい日本人同級生（Japanese）との接触場面における会話のデータである。CJコーパスは、友人同士の自由会話であり、縮約形が出現しやすい環境だと考えられる。また、接触場面の会話であるため、学習者と日本語母語話者両方の縮約形の使用状況について比較を行えるという2つの特徴を持っている。

## 4. 2 研究方法と手順

KYコーパスとCJコーパスではn-gramという統計法を使用する。n-gramとは最近の言語研究に広く利用されているモデルのことで、「言語テキストの中の、任意の長さの文字列の出現頻度を知ることの出来る手法」である（山内:2003）。本研究で使用するのは師茂樹によるMorogram<sup>(5)</sup>である。出現頻度が1回以上の2-gramから9-gram（ $n=2\sim 9$ ）の文字列を抽出した後、研究対象となる言語項目の出現頻度を調べる。この抽出作業は、正確性を確保するために2回行われ、合致しないところは3度目の検索を行う。名大会話コーパスの場合は、独自の検索ツールが付いているため、それを用いて検索をする。

なお、調査の際、対象となる表現かどうか確定できないような場合には（例えば、「ちやうがな」のような表現については）、日本語母語話者にその表現を確認してもらうことにする。

## 5. 調査結果

### 5. 1 名大会話コーパス

#### 5. 1. 1 データの背景に関して

データの性質：1組2～4人による自由会話（雑談）

データの長さ：各組の発話の長さは約45分 計36時間15分。

参加者：日本語母語話者

出身：関東・東海・関西地方

人数：113人（48組）

年齢層：10代後半から90代

### 5. 1. 2 名大会話コーパスの調査結果

名大会話コーパスで調査した各縮約形項目の出現頻度について、以下表1～6に示す。

表1 「んだ」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目        | 出現数 | 原形 | 縮約形  | 縮約率   |
|-------------|-----|----|------|-------|
| のだ／んだ       |     | 10 | 4459 | 100%* |
| のです／んです     |     | 2  | 1243 | 100%  |
| のではない／んではない |     | 0  | 0    | /**   |
| のじゃない／んじゃない |     | 4  | 437  | 99%   |
| 計           |     | 16 | 6139 | 100%  |

\*「%」：縮約率は小数点第1位を四捨五入して示す。以下同様。

\*\*「/」：使用頻度が足して20に至らないものは割合を示さない。以下同様。

表2 「てる」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目     | 出現数 | 原形  | 縮約形  | 縮約率 |
|----------|-----|-----|------|-----|
| ている／てる   |     | 233 | 2729 | 92% |
| ています／てます |     | 6   | 127  | 96% |
| 計        |     | 239 | 2856 | 92% |

表3 「じゃ」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目            | 出現数 | 原形 | 縮約形  | 縮約率 |
|-----------------|-----|----|------|-----|
| それでは／それじゃ       |     | 3  | 19   | 86% |
| ではない／じゃない       |     | 41 | 1584 | 98% |
| ではありません／じゃありません |     | 3  | 8    | /   |
| 計               |     | 47 | 1611 | 97% |

表4 「ちゃう」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目         | 出現数 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
|--------------|-----|----|-----|-----|
| てしまう/ちゃう     |     | 26 | 499 | 95% |
| てしまいます/ちゃいます |     | 1  | 11  | /   |
| てしまって/ちゃって   |     | 15 | 331 | 96% |
| 計            |     | 42 | 841 | 95% |

表5 「とく」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目       | 出現数 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
|------------|-----|----|-----|-----|
| ておく/とく     |     | 13 | 46  | 78% |
| ておきます/ときます |     | 2  | 3   | /   |
| ておいて/といて   |     | 17 | 76  | 82% |
| 計          |     | 32 | 125 | 80% |

表6 「きゃ」の使用率（名大会話コーパス）

| 言語項目              | 出現数 | 原形      | 縮約形       | 縮約率       |
|-------------------|-----|---------|-----------|-----------|
| ければ（なければ）/きゃ（なきゃ） |     | 54 (28) | 301 (276) | 85% (91%) |

以上の結果から、次のようなことが分かる。

- (1)すべての項目において、80%以上の高い縮約率が見られる。
- (2)縮約形「んだ」「てる」「じゃ」は使用率が高く、使用例も非常に多い。
- (3)「とく」の出現頻度は原形・縮約形合計160件と他に比べそれほど高くはないものの、縮約形の使用率は高い（80%）。
- (4)縮約形「きゃ」に関しては、ほとんど「なきゃ」（91%）の形で現れることが分かった。

上に示した名大会話コーパスによる検索結果を堀口（1989）、嶺岸（1999）で示された日本語母語話者の縮約形の使用状況と比べると、以下①～③のようなことが分かる。

- ①縮約形「んだ」「じゃ」「てる」の使用率がきわめて高いという点は、堀

口、嶺岸と一致している。

- ②縮約形「きゃ」はほとんど「なきゃ」の形で出現していることも、堀口と共通している。
- ③しかし、縮約形「ちゃう」と「とく」に関しては、堀口の調査結果では2項目の使用率はそれぞれ68%と52%、使用例はそれぞれ84例と13例である。それに対し、名大会話コーパスでは2項目の使用率はそれぞれ95%と80%、使用例はそれぞれ841例と125例になっており、使用率も使用例も堀口よりやや高い結果となった。

これまでの先行研究と今回の調査結果により、日本語母語話者は日常会話でより縮約形のほうを頻繁に使用していることが明らかになった。

## 5. 2 KYコーパス

### 5. 2. 1 データの背景に関して

今回利用するのはKYコーパス中国語母語話者29人分<sup>(6)</sup>のデータである。内訳は、超級5人、上級10人、中級9人、初級5人となっている。

### 5. 2. 2 KYコーパスの調査結果

KYコーパスで調査した中国人学習者レベル別の縮約形の使用率を表7～12にまとめた。

表7 「んだ」の使用率 (KYコーパス)

|             | 超級 |     |      | 上級 |     |      |
|-------------|----|-----|------|----|-----|------|
|             | 原形 | 縮約形 | 縮約率  | 原形 | 縮約形 | 縮約率  |
| のだ／んだ       | 0  | 17  | /    | 0  | 12  | /    |
| のです／んです     | 0  | 208 | 100% | 0  | 219 | 100% |
| のではない／んではない | 5  | 0   | /    | 0  | 0   | /    |
| のじゃない／んじゃない | 1  | 28  | 97%  | 0  | 13  | /    |
| 計           | 6  | 253 | 98%  | 0  | 244 | 100% |
|             | 中級 |     |      | 初級 |     |      |
|             | 原形 | 縮約形 | 縮約率  | 原形 | 縮約形 | 縮約率  |
| のだ／んだ       | 0  | 15  | /    | 0  | 0   | /    |
| のです／んです     | 0  | 76  | 100% | 0  | 0   | /    |
| のではない／んではない | 0  | 0   | /    | 0  | 0   | /    |
| のじゃない／んじゃない | 0  | 1   | /    | 0  | 0   | /    |
| 計           | 0  | 92  | 100% | 0  | 0   | /    |

表8 「てる」の使用率 (KYコーパス)

|          | 超級 |     |     | 上級 |     |     |
|----------|----|-----|-----|----|-----|-----|
|          | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| ている／てる   | 64 | 15  | 19% | 47 | 95  | 67% |
| ています／てます | 25 | 10  | 29% | 45 | 74  | 62% |
| 計        | 89 | 25  | 22% | 92 | 169 | 65% |
|          | 中級 |     |     | 初級 |     |     |
|          | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| ている／てる   | 7  | 11  | /   | 1  | 0   | /   |
| ています／てます | 44 | 10  | 19% | 4  | 1   | /   |
| 計        | 51 | 21  | 29% | 5  | 1   | /   |

表9 「じゃ」の使用率 (KYコーパス)

|                     | 超級 |     |     | 上級 |     |     |
|---------------------|----|-----|-----|----|-----|-----|
|                     | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| それでは／それじゃ           | 0  | 0   | ／   | 1  | 0   | ／   |
| ではない／じゃない           | 10 | 34  | 77% | 11 | 59  | 84% |
| ではありません／<br>じゃありません | 2  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| 計                   | 12 | 34  | 74% | 12 | 59  | 83% |
|                     | 中級 |     |     | 初級 |     |     |
|                     | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| それでは／それじゃ           | 0  | 1   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| ではない／じゃない           | 1  | 14  | ／   | 0  | 0   | ／   |
| ではありません／<br>じゃありません | 0  | 1   | ／   | 1  | 2   | ／   |
| 計                   | 1  | 16  | ／   | 1  | 2   | ／   |

表10 「ちゃう」の使用率 (KYコーパス)

|              | 超級 |     |     | 上級 |     |     |
|--------------|----|-----|-----|----|-----|-----|
|              | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| てしまう／ちゃう     | 1  | 4   | ／   | 4  | 2   | ／   |
| てしまいます／ちゃいます | 0  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| てしまって／ちゃって   | 0  | 0   | ／   | 3  | 0   | ／   |
| 計            | 1  | 4   | ／   | 7  | 2   | ／   |
|              | 中級 |     |     | 初級 |     |     |
|              | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| てしまう／ちゃう     | 0  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| てしまいます／ちゃいます | 0  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| てしまって／ちゃって   | 0  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |
| 計            | 0  | 0   | ／   | 0  | 0   | ／   |

表11 「とく」の使用率 (KYコーパス)

|            | 超級 |     |     | 上級 |     |     |
|------------|----|-----|-----|----|-----|-----|
|            | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| ておく／とく     | 0  | 0   | /   | 0  | 0   | /   |
| ておきます／ときます | 0  | 0   | /   | 1  | 0   | /   |
| ておいて／といて   | 0  | 0   | /   | 0  | 1   | /   |
| 計          | 0  | 0   | /   | 1  | 1   | /   |
|            | 中級 |     |     | 初級 |     |     |
|            | 原形 | 縮約形 | 縮約率 | 原形 | 縮約形 | 縮約率 |
| ておく／とく     | 0  | 0   | /   | 0  | 0   | /   |
| ておきます／ときます | 0  | 0   | /   | 0  | 0   | /   |
| ておいて／といて   | 0  | 0   | /   | 0  | 0   | /   |
| 計          | 0  | 0   | /   | 0  | 0   | /   |

表12 「きゃ」の使用率 (KYコーパス)

|                          | 超級      |       |     | 上級     |       |     |
|--------------------------|---------|-------|-----|--------|-------|-----|
|                          | 原形      | 縮約形   | 縮約率 | 原形     | 縮約形   | 縮約率 |
| ければ (なければ) /<br>きゃ (なきゃ) | 13 (13) | 0 (0) | /   | 10 (9) | 3 (3) | /   |
|                          | 中級      |       |     | 初級     |       |     |
|                          | 原形      | 縮約形   | 縮約率 | 原形     | 縮約形   | 縮約率 |
| ければ (なければ) /<br>きゃ (なきゃ) | 8 (6)   | 0 (0) | /   | 0 (0)  | 0 (0) | /   |

表7～12から、以下のことが分かる。

- (1)「んだ」の場合、初級学習者による縮約形の使用が全く見られなかったが、中級以上の学習者には原形「のだ」は使われず、ほぼすべて「んだ」の形で使用されている。
- (2)「てる」に関しては、上級学習者は65%の割合で縮約形を使用しているが、超級と中級学習者の縮約形の使用率は30%未満とかなり低かった。
- (3)縮約形「じゃ」に関しては、上級以上の学習者に多く使用されており、中級学習者でも「では」より「じゃ」のほうの出現頻度が高かった。
- (4)縮約形「きゃ」・「ちゃう」・「とく」の3つの項目は、出現数が少ないため、

割合を出すことは控えた。「きゃ」については、超級、上級、中級学習者の原形の使用頻度が高い。「ちゃう」の場合は、超級学習者は縮約形を使用することがあるのに対して、上級の学習者は原形の方を使う傾向が見られる。縮約形「とく」は原形「ておく」とともに、学習者にほとんど使用されていない。

以上(1)~(4)より、上級学習者は縮約形「んだ」「じゃ」「てる」については十分に使用できていることが分かった。「てる」に関しては、超級学習者でも使用頻度が低かった理由として、今回調べた超級学習者は5人しかいないことや、話題の影響などの要因が考えられる。以上KYコーパスを用いた調査により、上記(1)~(4)のようなことが見えてきた。しかし、本研究においてKYコーパスを用いることには次のような短所もあると思われる。

- i) 発話量が学習者のレベルによってかなり異なっているため、縮約形の出現頻度が比べにくい。
- ii) レベル別の学習者の人数が均一ではないため、比較しにくい。
- iii) 学習者の話し相手が教師であるため、縮約形が出にくい会話環境であると考えられる。
- iv) 学習者に関する在日年数などの背景情報の把握が不可能。

これらの短所を補うために、さらなる調査を行う必要があると考えられる。

### 5. 3 CJコーパス

#### 5. 3. 1 データの背景に関して (趙2003による)

- データの性質 : 自由会話  
 データの長さ : 1組約30分 計5時間  
 参加者の関係 : 友人同士  
 参加者 : 日本語母語話者と中国人学習者10組  
 日本語母語話者 : 10人  
 年齢 : 21歳~28歳  
 中国人学習者 : 10人  
 年齢 : 22~30歳  
 日本滞在期間 : 2年以上  
 日本語学習期間 : 不明  
 日本語レベル : 上級 (日本語能力試験1級合格)

### 5. 3. 2 CJコーパスの調査結果

CJコーパスのデータに関しては、趙（2003）は業者に依頼し、録音を文字化した後、録音を聞き、文字化データを確かめた。筆者も会話の録音テープを2回聞き、縮約形と原形の使用比率を記録・確認した。その結果について以下表13～18に示す。

表13 「んだ」の使用率（CJコーパス）

| 出現数<br>言語項目 | 学習者 |     |                    | 母語話者 |     |      |
|-------------|-----|-----|--------------------|------|-----|------|
|             | 原形  | 縮約形 | 縮約率 <sup>(7)</sup> | 原形   | 縮約形 | 縮約率  |
| のだ／んだ       | 2   | 106 | 98%                | 0    | 229 | 100% |
| のです／んです     | 2   | 210 | 99%                | 2    | 225 | 99%  |
| のではない／んではない | 0   | 0   | /                  | 0    | 0   | /    |
| のじゃない／んじゃない | 2   | 44  | 96%                | 0    | 20  | 100% |
| 計           | 6   | 360 | 98%                | 2    | 474 | 100% |

表14 「てる」の使用率（CJコーパス）

| 出現数<br>言語項目 | 学習者 |     |     | 母語話者 |     |     |
|-------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|
|             | 原形  | 縮約形 | 縮約率 | 原形   | 縮約形 | 縮約率 |
| ている／てる      | 11  | 195 | 95% | 7    | 227 | 97% |
| ています／てます    | 3   | 21  | 88% | 1    | 18  | /   |
| 計           | 14  | 216 | 94% | 8    | 245 | 97% |

表15 「じゃ」の使用率（CJコーパス）

| 出現数<br>言語項目         | 学習者 |     |      | 母語話者 |     |     |
|---------------------|-----|-----|------|------|-----|-----|
|                     | 原形  | 縮約形 | 縮約率  | 原形   | 縮約形 | 縮約率 |
| それでは／それじゃ           | 0   | 1   | /    | 0    | 1   | /   |
| ではない／じゃない           | 0   | 118 | 100% | 1    | 85  | 99% |
| ではありません<br>／じゃありません | 0   | 0   | /    | 0    | 0   | /   |
| 計                   | 0   | 119 | 100% | 1    | 86  | 99% |

表16 「きゃ」の使用率 (CJコーパス)

| 出現数<br>言語項目              | 学習者     |       |     | 母語話者  |         |     |
|--------------------------|---------|-------|-----|-------|---------|-----|
|                          | 原形      | 縮約形   | 縮約率 | 原形    | 縮約形     | 縮約率 |
| ければ (なければ) /<br>きゃ (なきゃ) | 12 (10) | 3 (3) | /   | 2 (1) | 15 (15) | /   |

表17 「ちやう」の使用率 (CJコーパス)

| 出現数<br>言語項目      | 学習者 |     |     | 母語話者 |     |     |
|------------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|
|                  | 原形  | 縮約形 | 縮約率 | 原形   | 縮約形 | 縮約率 |
| てしまう/ちやう         | 1   | 16  | /   | 3    | 21  | 88% |
| てしまいます/<br>ちやいます | 1   | 2   | /   | 0    | 0   | /   |
| てしまって/ちやって       | 0   | 8   | /   | 0    | 18  | /   |
| 計                | 2   | 26  | 93% | 3    | 39  | 93% |

表18 「とく」の使用率 (CJコーパス)

| 出現数<br>言語項目 | 学習者 |     |     | 母語話者 |     |     |
|-------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|
|             | 原形  | 縮約形 | 縮約率 | 原形   | 縮約形 | 縮約率 |
| ておく/とく      | 0   | 0   | /   | 0    | 0   | /   |
| ておきます/ときます  | 0   | 0   | /   | 0    | 0   | /   |
| ておいて/といて    | 0   | 3   | /   | 1    | 0   | /   |
| 計           | 0   | 3   | /   | 1    | 0   | /   |

上記表13～18から以下のことが分かる。

- (1)項目「んだ」、「てる」、「じゃ」は学習者・母語話者の両方とも、縮約形の使用頻度が高く、縮約率も高い。
- (2)項目「ちやう」は学習者・母語話者共に縮約形の使用頻度が低い(26例;39例)が、縮約率は共に93%と高い。
- (3)縮約形「きゃ」の使用頻度は学習者、母語話者ともかなり低い。
- (4)項目「とく」は縮約形の使用例がほとんど見られないため、縮約率についての考察はできない。

CJコーパスから上記(1)～(4)の事項が明らかになった。しかし、本研究においてこのCJコーパスには、以下 i)、ii) に示すような短所も挙げられる。

- i) 話題による縮約形の使用頻度の違いは避けられないが、ここでは自由会話のため話題のコントロールはできない。
- ii) 全体的な発話量に個人差がある。

今回得られた結果には、「きゃ」以外の項目においては、縮約形の使用に日本語母語話者と学習者の差が認められなかった。5-3-1節で述べたように、CJコーパスで調査対象となった学習者は文系の大学院生であり、かつ日本滞在期間が2年以上の人が多くことから、今回の被験者は上級レベルの学習者だけでなく、超級を含む超級・上級の学習者である。そのため、学習者の使用状況が日本語母語話者に極めて近くなったと考えられる。しかし、KYコーパスでも見られたように、縮約形「きゃ」の使用には依然差がみられることが示唆された。

## 6. まとめと今後の課題

本研究では、名大会話コーパス、KYコーパスおよびCJコーパスの3つのデータを用いて、日本語母語話者と学習者の縮約形の使用状況について調べてきた。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 堀口(1989)と嶺岸(1999)の結果と同様、日本語母語話者の縮約形の使用率は非常に高い(名大コーパス・CJコーパス)。
- 2) 超級学習者は日本語母語話者と同様に、かなり高い使用率で縮約形を使用している(CJコーパス)。
- 3) 上級学習者は「んだ」、「じゃ」、「てる」の3項目の使用率が高い(CJコーパス・KYコーパス)。
- 4) 中級以下の学習者は縮約形の使用例が少なく、ほとんどの項目は使用していない(KYコーパス)。

本研究は名大会話コーパスを利用し、日本語母語話者が縮約形の使用率の高いことを検証した。同時に、KYコーパスとCJコーパスを分析することにより、日本語学習者の縮約形の使用状況とその日本語レベルとの関係を明らかにし

た。しかし、本文の中でも述べたように、今回利用した2つの学習者コーパスにはそれぞれ短所が見られた。例えば、各レベルの学習者の人数が均一ではないため、レベル間の使用状況を比較することに支障が生じた（KYコーパス）。また、2つのデータにおける学習者の日本語レベルの判断基準が統一していないため、両データの間では比較を行いにくかった。さらに、両データともに、学習者の学習期間や学習環境などの背景に関して明記されていないため、縮約形の使用状況への学習環境の影響について考察することはできなかった。したがって、今後の課題として、被験者のレベルや人数、学習環境などを統制したうえで、さらなる調査を行い、学習者の縮約形の使用状況およびそれへの学習環境の影響を明らかにする必要があると考えられる。

## 注

- (1) 「音節の脱落・融合」のことで、例えば「デハ」→「ジャ」はこの類である。
- (2) 「単音の脱落」のことで、例えば「テイル」→「テル」はこの類である。
- (3) 「音の長さの短縮」のことで、例えば「ホントー」→「ホント」はこの類である。
- (4) 括弧のなかはその原形である。
- (5) 師茂樹によって作られたn-gramのことで、詳細は下記URLなどを参照。  
(<http://www.shuiren.org/chuden/teach/n-gram/01.htm>)
- (6) 中国人学習者のデータは30人分あるはずだが、データを確認したところ、中級10人のうち1人はマレーシア語母語話者であることが分かった。
- (7) 縮約率の計算式：縮約率＝縮約形出現数／（縮約形出現数＋原形出現数）

## 参考文献

- 小磯 花絵他 (2002) 「話し言葉における助詞の撥音化現象の実態—『日本語話し言葉コーパス』を用いて—」 社会言語科学会 第10回研究大会予稿集
- 齊藤 純男 (1991) 「現代日本語における縮約形の定義と分類」『東北大学日本語教育研究論集』第6号
- 迫田 久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク

- 趙 静 (2003)『中国人日本語上級学習者に見られる接触場面での聞き手行動』  
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 修士学位論文
- 土岐 哲 (1975)「教養番組に現れた縮約形」『日本語教育』28号
- 東 会娟 (2004)『日本語学習者の縮約形の習得について—中国人学習者の場合—』名古屋大学大学院国際言語文化研究科 修士学位論文
- 梁井 久江 (2003)「『一テシマウ』と『一チャウ』の相違」日本語教育学会平成15年春季大会予稿集
- 福島 悦子・上原聡 (2005)「丁寧体の会話における縮約形使用に関する一考察—日本語の母語話者と学習者の会話を比較して—」東北大学大学院国際文化研究科論集 第12号
- 堀口 純子 (1989)「話し言葉における縮約形と日本語教育への応用」『文芸言語研究 言語篇』15号
- 牧野 成一他 (2001)『ACTFL OPI入門』アルク
- 嶺岸 玲子 (1999)「日本語学習者への縮約形指導のめやす」『日本語教育』102号
- 山内 博之 (2003)「OPIデータから見えてくるもの—語・形態素から文・段落を見る—」第14回第二言語習得研究会全国大会予稿集

